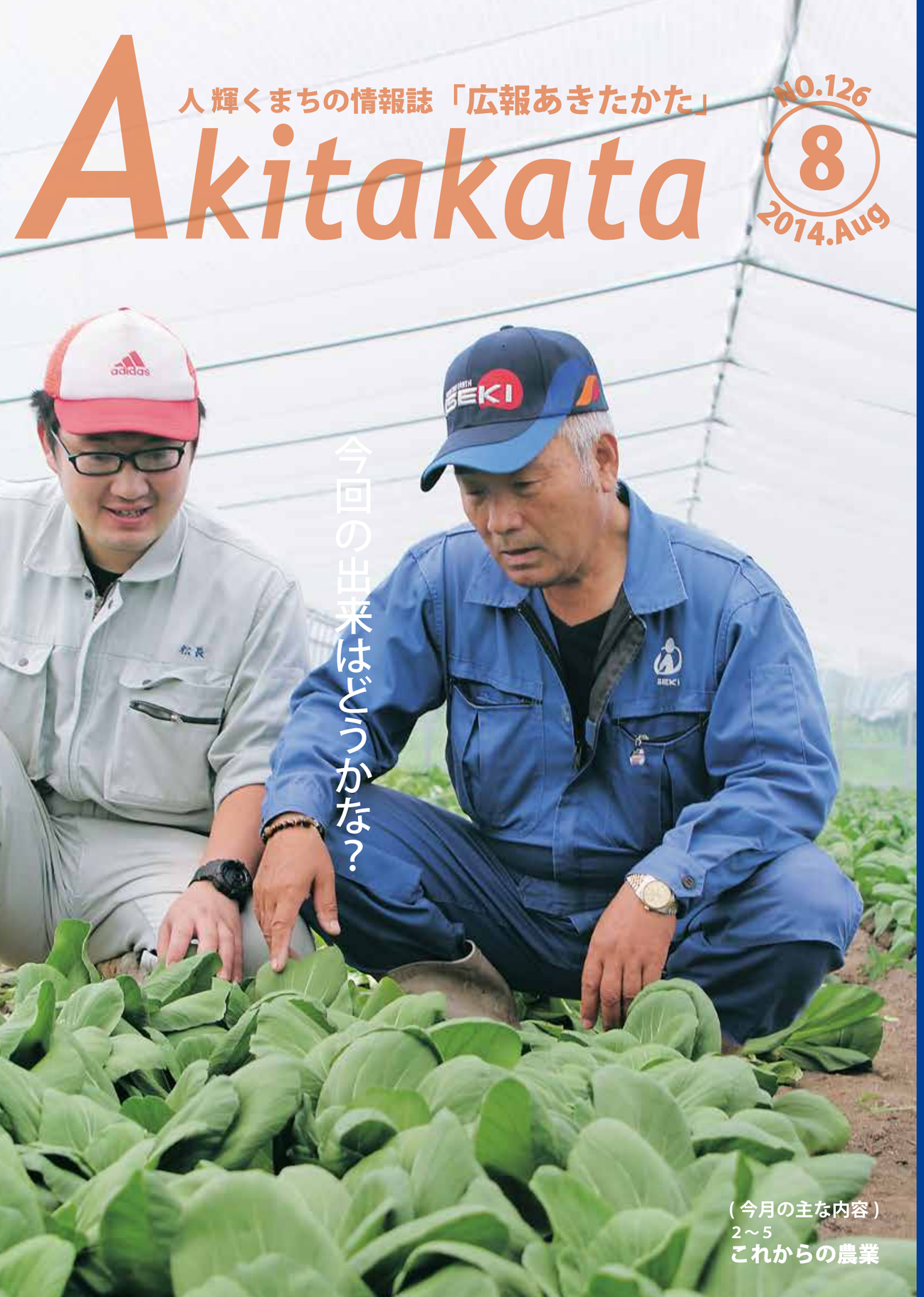
人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」
Akitakata
NO.126
8
2014.Aug



（今月の主な内容）
2～5
これからの農業

発行編集　安芸高田市　政策企画課　〒731-0592　広島県安芸高田市吉田町吉田791　Tel.(0826)42-5612　Fax.(0826)42-4376　http://www.akitakata.jp/

安芸高田歴史紀行

奥垣内城（おくがいちじょう）《高宮町船木》

【登城ガイド】
標高／230m、比高／50m
史跡指定／未指定
城主／不明
所要時間／南側県道から10分

奥垣内城遠望（西側より撮影）

周辺位置図

シリーズ「お城拝見！」第五十回

安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員　秋本哲治

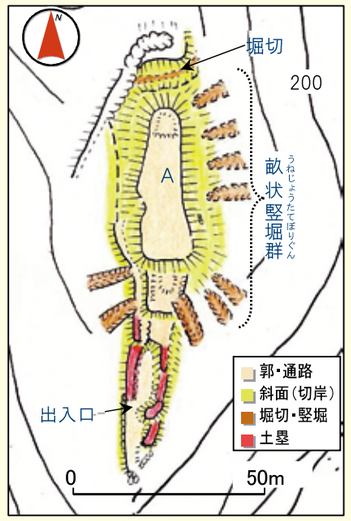
おかげさまでこの連載は今回50回目となりました！今後とも引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。近年は里山に人が入らなくなり、城跡も荒れています。今回は低い山でしたが、県道からの登り口が凄まじいブッシュ（茂み）で完全に塞がれ苦戦しました…。

立地…別名梅木城。生田川が大きく蛇行する地点に突き出した丘陵の先端にあり、北の江の川から船木に入る交通路を押さえる要所です。民家のすぐ裏山にありますが、地元でも城跡の存在はほとんど知られていません。地元では「奥垣内」という屋号も伝わります。

歴史…江戸後期の『芸藩通志』に城名の記載があります。地元では和智氏（本拠地は吉舎）の出城と伝わりますが、当時船木に和智氏の所領があったかは不明です。一方、別の俗説では城主は辺見氏とされ、さらには三次の三吉氏との関係も推測されています。また、弘治3（1557）年に梅木城の麓にあった八幡宮が移され、現在の中之山八幡になったという伝承も残っています。

城跡…最大の郭Aを中心に、南を向いた小規模な城跡です。北側は堀切で背後の尾根を断ち切り、南側は小さな郭を土塁で囲み出入口を固め、さらに複数の竪堀を設けています。この城の特徴として東側の畝状竪堀群（うねじょうたてぼりぐん）がありますが、現在は不明瞭で僅かに痕跡を留める程度です。小規模ながら土塁、堀切、畝状竪堀群など軍事的要素の強い構造で、特に東側への備えが顕著です。

考察…畝状竪堀群とは、斜面に複数の竪堀が連続して並ぶ畑の畝のような遺構です。戦国時代の山城で発達した防御施設とされていますが、安芸高田市内ではあまり事例がありません。このように小規模で軍事的要素が強いことから、築城者は地元の土豪などよりも上級の権力（国人領主等）が見張りなどの戦略的意図で築いたとも考えられます。



奥垣内城略測図（作図　秋本哲治）

不明瞭な畝状竪堀群（Aより撮影）

編集後記

私が小さい頃は特集記事にあるはったい粉や、かたくり粉をかいたり、確か流し焼きと言われていたと思いますが、今で言うホットケーキのようなものを作ってもらっていたことを思い出しました。うーん懐かしい。

農地の荒廃を防いでおられることもすばらしいことですが、日々仲間と共に汗を流す時間が、かけがえのないものではないのかなと感じました。（浮田）

暑い夏。外の取材が続きます。いつもいつも、汗だく。といいながら、今年は痛い日差しが弱いような。〝気のせい〟でもありがたい。（森本）

小さい頃は苦手だった野菜ですが、今ではほとんどおいしく食べられるようになりました。農家の皆さんが手をかけて育てた野菜を、ありがたく頂きたいと思います。（田村）

今月の表紙▼

株式会社羽佐竹農場でチンゲン菜の出来を確かめる、松長さんと松川社長。松長さんが心を込めて作ったチンゲン菜がたくさん育っています。